

防災落語「セロ弾きのゴーシュ」を聴いて

花巻市立南城中学校

1年生

○セロ弾きのゴーシュは6年生（注：南城小学校。以下皆さん同じ）で演じたので、場面を想像しながら聞くことができました。セリフも同じ所があったため、思い出すことができました。一つ一つの口調がていねいで動物たちの優しさが伝わり、また、一つ一つの動作が大きく、迫力がありました。

チェロの演奏には、とても注目して見ていました。前の方の席だったので、弦の使い方もよく見れて、とても良かったです。自分も見入ってしまい、すごいと感じました。

落語とチェロがいっしょにやるということにびっくりしましたが、見れて良かったです。まだ、セロ弾きのゴーシュから防災を感じ取ることができなかつたので、読み取れるようになりたいと思います。 **小館 なごみ**

○今日は、川柳つくしさんの落語とチェリストの演奏を聞いて、防災落語は、とても聞きとりやすい声でした。声色を変えて演技していてとても一人で話しているとは思えませんでした。チェリストの2人も、とても素晴らしい音色を響かせていて、最後の方の長い演奏をしていてすごいと思いました。僕たちが6年生のときに演じていたのと同じかそれ以上うまくてびっくりしました。落語を聞くのは2回目なのでとてもよい経験になりました。また聞く機会があったら聞きたいと思いました。 **鈴木 遼汰**

○今日聞いてみて、表現の仕方がうまいと思いました。私達も6年生の時にげきをしました。その時にあったセリフやナレーションがあって、なつかしいなーと思いながら聞くことができました。ゴーシュをうまくさせる動物達は一匹一匹いろいろな表現のしかたがあっておもしろかったです。落語を聞くのは2回目でした。知っている物語を落語で聞くのも楽しかったです。また落語を聞きたいと思いました。 **川村 莉央**

○今日は、賢治の精神（こころ）をたずねる会がありました。川柳つくし師匠が防災落語の「セロ弾きのゴーシュ」を語ってくれました。私達は6年生のとき、同じ物語をやったので、話の内容はだいたいわかっていました。また、チェリストの2人もお話しを語っているようにひいていたのですごいと思いました。ピアニストもすごかったです。つくしさんの声は、動物らしくとてもかわいかったです。

自分達でやったときとちがった見方でできたのでとても良かったです。

佐藤 涼乃

2年生

○僕は、まず第一印象として、賢治さんの作品を落語にするという発想がおもしろいなと思いました。

僕たちの学年は「セロ弾きのゴーシュ」を小学校でやっていなかっただけで、僕は本でも読んでいなかったためストーリーが分かりませんでした。しかし、落語にした「セロ弾きのゴーシュ」は聴きやすくおもしろかったのでストーリーがよくわかりました。

先日落語を聴かせていただいたときにおっしゃっていた、仕事で誰かを表すことをやっていたので、親しみをもって聴くことができました。

福岡 侑成

○今回の落語は、皆知っている「セロ弾きのゴーシュ」をもとにしているので、とても親きん感がわきました。私は、賢治さんの作品は色々と読んできましたが、セロ弾きのゴーシュはちゃんと読んだことがなかったので良い機会でした。話す人も、聞き取りやすかったです。

演奏している人も、とてもカッコよかったし、落ち着く音だと思います。見ていておもしろかったし、力強い演奏が落語と合っていました。

伊藤 朱美怜

○今回の会では、「セロ弾きのゴーシュ」を見ました。この作品は、私が小学校の頃、よく読んでいた作品です。当時は、ゴーシュの激しい感情や、それに対する動物達の反応がおもしろくて読んでいた様に思います。しかし、今回の会を通し、更に「セロ弾きのゴーシュ」の魅力に気付きました。

今回は、落語で、演奏もあるという、いつも本で読んでいる時とは、一風かわった「セロ弾きのゴーシュ」を聞きました。そのせいか、同じ内容にもかかわらず、作風が、がらっと変わった様に感じました。いつもとは違う、面白味のある作品を聞くことができ、とても楽しく過ごすことができました。

瀬川 愛

○私は、「セロ弾きのゴーシュ」を聴いて、すごくおもしろかったです。落語がセロの音楽とすごく合っていて、とてもすばらしかったです。私は、聴いていて、まるで本当に、「セロ弾きのゴーシュ」の世界にいるような感じで、すごく楽しかったです。また、落語家のつくし師匠さん一人でやる演技がすごくすばらしかったです。一人でやるのは、そうとう難しいのではないかと思いました。でもその役に合ったものをすぐにできるというのは、つくし師匠さんはやっぱりすごいと私は思います。

今度、このような機会があれば、また聴いてみたいし、つくし師匠さんにも会ってみたいです。本当にすばらしかったです。

猫塚 彩花

○10月21日にセロ弾きのゴーシュを落語で聞きました。小学校で賢治先生の作品を毎年演じてきたので、ストーリーは知っていましたが、落語で聞くとなまりや方言などが出てきて、日本っぽくアレンジされた感じになったのでおもしろいと思いました。

また、チェロとのコラボもすばらしかったです。ゴーシュの下手さを表現するために、音階を半音ずれたような音にしている、工夫しているなど、思いました。

また機会があったら、物語と音楽が組み合わさったステージを見てみたいと思います。

吉池 真宙

○今日の、「賢治の精神にふれる集会」では、セロひきのゴーシュを落語で聞きました。セロひきのゴーシュは、小学校の頃から知っていて、どんな感じになるのか気になりました。聞いたら、落語の人もおもしろくてすごかったけど、楽器をひいてる人も話の内容にあわせて音を出していてさすがプロだなと思いました。とても貴重な体験をさせていただきました。

中島 大喜

○セロ弾きのゴーシュを聴いて、生のチェロの演奏が印象に残りました。初めの方は、下手なゴーシュの演奏を再現したりしていて、すごいと思いました。そして、私はセロ弾きのゴーシュのだいたいの内容は知っていたけど、今回の落語を聴いて、より詳しい内容を知ることができました。落語も、何人（匹）もいる登場人物を、一人で声を使い分けながら、行っていて、すごいと思いました。

戸田 優那

3年生

○小学校のころに、「セロ弾きのゴーシュ」を劇でやったことがあり、なじみのあるものだったけど、初めて落語

を聴いてみて、おもしろいなと思いました。物語を知ってるし劇でもやったことがあるので場面を想像して落語を聴くと、もっとおもしろくなり、とてもたのしく聴き入ってしまいました。

落語には、あまり興味がなく、ただ話を聴いているだけなので、つまらないと思っていました。が、今回の行事でその考えは変わりました。もっとたくさんの落語を聴いてみたいなと興味が出てきました。

新たな楽しみを発見できて、とてもよいものだったと思います。

鈴木 健太

○今回の「セロ弾きのゴーシュ」を聴いて、僕はやっぱりプロの力はすごいと思いました。今までに聞いたことがあった作品だったのに、そこに実際に楽器がはいったり、語り方が工夫されていて、まったく別の作品のように感じました。特に、ゴーシュの下手な弾き方をまねするのは、逆に難しそうでも、やっぱりプロの力はすごいと感じました。

今回の体験で改めて賢治作品はいい話だと思いました。これからも賢治作品にふれていこうと思いました。

八重樫 聖也

○音楽が物語をよく引き立てていて、とても素敵だと思いました。しっかりストーリーを聞いたのは、小学校低学年以来でしたが、今回改めて「セロ弾きのゴーシュ」の面白さを感じることができました。

また、チェロの生演奏を聞くという貴重な体験ができたこともとてもうれしかったです。中々機会が無い中で、きれいな音を聞くことができ、チェロの良さを知ることができました。

動物たちの楽しい会話、オーケストラの音色、その他全てを、お一人で表現されていて本当に凄いと思います。

楽しく素敵なものを見せてくださり、ありがとうございました。皆さんのお話し・演奏で温かい気持ちになりました。

小田島 理月

○私が思っている落語は一人で演じるものだと思っていた。しかし今回の落語は宮澤賢治の作品である。「セロ弾きのゴーシュ」を用いたものだった。しかも、音楽に乗せてやっているもので、より話をイメージしながら聞くことができた。私はセロ弾きのゴーシュという話を知らなかった。題名しか聞いたことがなかったので、はじめて知ったセロ弾きのゴーシュは落語で楽しく聞けたのでよかった。次またセロ弾きのゴーシュを読むときはあの落語を思い出しながら読んでみたいです。

諏訪 舞花

○セロ弾きのゴーシュは、私たち3年生も小学生のころに学習発表会で演じた物語でもありました。私は「カッコウ」の役だったので、カッコウに注目しながら聞きました。ストーリー的には、小学生のころに演じたのと、ほぼいっしょだったのでなつかしいなあと思いました。また私が特に印象に残ったことは、細かいところもセロ弾きのゴーシュを再現していることです。例えば、セロをうまく弾くことができないゴーシュのセロの音なんかセロではなく口で表現していることにおどろきました。また、物語を演じているときの表情なんか工夫して物語の内容にうまく合うように演じていました。登場人物が何人もでてくる物語を一人で演じることは難しいことなのだと思います。セロ弾きのゴーシュを聞いてまた興味をもったし、また賢治先生の作品にも少しふれてみたいと思いました。

竹林 郁彦

○私は小学生のとき、セロ弾きのゴーシュを劇でやったことがありました。小学2年生のときのことでしたが、私は今でも演じた役とそのセリフを覚えています。私はカッコウでした。セリフは「カッコウ、と鳴くのと、カッコウ、と鳴くのは違うでしょう」でした。落語でこのシーンになったとき、私はクスッと笑いました。とても忠実にカッコウを再現していたからです。手の動きまで付けていて、アホっぽい表情なんか、全くカッコウで

した。ゴーシュのいばりっぷりも、ネコの暴れようも、タヌキもネズミも・・・なんだか小学生のときの劇の記憶がよみがえってきて、とてもなつかしく、温かい気持ちになりました。

今日の落語を通して、私はさまざまな感動を味わうことができました。今度はツェねずみなんかはいかがでしょうか。楽しみにお待ちしております。【太田さん、ご提案ありがとうございます！】 太田 愛理

南城中学校の生徒さんへ

皆さん、熱心に聴いてくださってありがとうございました。

セロ弾きのゴーシュを読んだことがある人や演じたことがある人、読んだことがない人、それぞれの見方で楽しんでもらえて良かったです。今後もぜひ、落語や賢治先生の作品に触れていってくださいね。 川柳つくし



